

広報のびる芽 第69号



(編集・発行) 越谷市青少年育成推進委員協議会

越谷市越ヶ谷 4-2-1 越谷市役所青少年課内 TEL963-9308

令和7年度 視察研修会 【一般社団法人コンパスナビ】

10月2日(木)、さいたま市浦和区にある一般社団法人コンパスナビ(代表・ブローハン聡)を訪問し、児童養護施設などを退所した若者や家庭に居場所のない若者への支援について理解を深めることが出来ました。同法人では、住居支援や就労支援、生活自立支援などを行い、若者が安心して自立に向けた一歩を踏み出せるようサポートを行うとともに、埼玉県福祉部こども安全課からアフターケア事業の委託を受け、退所者向けの居場所「クローバーハウス」を運営しています。

今回、見学したクローバーハウスは、青少年から30代までの幅広い世代の方々が利用でき、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせる環境が整えられています。また、室内レクリエーションやお金の管理セミナーなど、日常生活に役立つ活動のほか、食料や衣類、化粧品などの生活物資の提供も行われています。さらに、利用者の実体験を踏まえたエピソードや、スタッフの皆さんの温かなサポートが印象的で、居場所づくりの大切さと支援の重要性を改めて感じる機会となりました。今回、得た学びを、今後の青少年健全育成活動に活かしていきたいと思います。



社会を明るくする運動・青少年非行化防止「音楽と講演のつどい」

7月16日(水)、中央市民会館劇場にて越谷市社会を明るくする運動・青少年非行化防止「音楽と講演のつどい」が開催されました。開会セレモニーのオープニング曲は、越谷市消防音楽隊による行進曲「ハロー・ファイヤーマン」。時折鳴り響くサイレンや鐘の音と共に、エネルギッシュな演奏は心を奮い立たせてくれる素晴らしいものでした。その後も、幅広いジャンルの演奏により、参加者の心は魅了され、『音楽のチカラ』は『生きるチカラ』になると感じた一時でした。

講演では、さいたま法務少年支援センター 非行防止相談室ひいらぎ 岡本 泰典氏より「非行少年の理解と支援者側の心構えについて」を講演いただきました。非行とは、個人の問題(知能、性格等)と環境問題(家庭、学校等)の相互作用が長期化し表れるものであり、いわゆる問題行動を起こしてしまうのは心のSOS、本人が生き延びるための選択であるとのことでした。

支援者側の心構えとしては、問題行動に目を向けるのではなく、そこには必ず要因があることを意識すること。また、「できることなら皆と同じように普通に暮らしたい」と思っているかもしれないと念頭に置きながら、目先の態度や発言に振り回されず、少年が抱えた辛さや気持ちを理解し、粘り強く関わり続ける姿勢が大切である。

さらに、更正するにあたり、厳罰を与えても社会の対応が変わらなければ、元の犯罪に戻ってしまうので、戻れる社会を作っておくことが大切だと、現場で向き合っている岡本氏の説得力のある切実な思いを語ってくださいました。



三市合同研修会

11月19日(水)、草加市文化会館にて埼玉県ネットアドバイザー青木美佳氏を講師にお迎えし、「デジタル時代～デジタルシチズンシップを考える～」をテーマに講演会が開催されました。デジタルシチズンシップとは、デジタル技術の利用を通じて社会に積極的に関与し参加する能力のことです。

小中学校の児童・生徒がタブレットを使って勉強するようになり、スマホ決済や二次元コードなどが当たり前になった昨今、その利便性を享受しつつも不安を感じている方も多いのではないのでしょうか。特に、成長過程にあるお子さんをお持ちの保護者の皆さんは、その心身に及ぼす影響が心配だと思います。

まずは、脳への影響です。SNSやゲームなどによる長時間のスマホ使用により、ドーパミンが過剰分泌され、集中力、判断力の低下につながることがあります。次は、目への影響です。長時間の近距離使用は近視や眼精疲労、急性内斜視の原因となり、さらに、姿勢の崩れはストレートネックや肩こりを引き起こします。最後は、心への影響です。SNSを見ることで自分と他人を比べてしまい、承認欲求や孤独感につながるということがいわゆる「SNS疲れ」です。対処法としては、様々な情報が飛び交う、いわゆる情報の洪水の中で、「自分の軸」を保つことが大切です。また、寝る直前のスマホ使用は睡眠不足につながり、イライラするなどの感情コントロールに影響します。

お子さんが自身で対策するのは難しいことですので、ご家庭でスマホなどの使用についてルールを作り、話し合ってみてはいかがでしょうか。

～デジタルシチズンシップ～

1、安全に使う 2、他者を尊重する 3、社会に良い影響を

Coffee Break



「ハラボジ、ハルモニはいつ来るの？」

ある日、息子達から質問を受けました。韓国では、ハラボジ、は夫側の祖父、ハルモニ、は祖母の意味です。日韓夫婦で暮らす我が家には、毎年、韓国の秋夕(チュソク)の時期になると、夫の両親が子ども達に会いにきてくれます。秋夕は日本というお盆にあたる韓国の大きな連休です。人々はお墓参りをし、ソンプジョンというお餅を作ったり、贈り物を送り合って家族との時間を過ごします。この期間、韓国では多くのお店が休業になるほど、家族行事として大切にされています。

ハラボジとハルモニが訪れてくれる時間は、韓国の文化に触れられる貴重な機会でもあります。

これからも子ども達には様々な国の文化や言葉に触れ、多様な価値観に出会える機会をたくさん作ってあげたいと思います。

広報部会長のひと言

先日、友人達に連絡することがあり、メール発信を若い友人に頼んだところ、すぐに分かりやすく上手な文面を発信してくれました。忙しい人ながら、快く引き受けてもらい、感謝しました。

人との付き合いは、年齢ではなく気心の合った人と助け合いながら、無理なく楽しく過ごしたいものです。

子ども達には、自分に合った友人を沢山作り、色々な経験をし、大人になってほしいと願っています。

人生は持ちつ持たれつ様ですね。



毎月第3日曜日は
「家庭の日」

忙しい毎日の生活の中では、家族みんながそろって食事をしたり、家族で団らんするなど、家族でふれあう機会が薄れがちです。

そこで、積極的に家族がふれあうように心がける日として、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定めています。